

大阪工業大学(テーマV:卒業時における質保証の取組の強化)

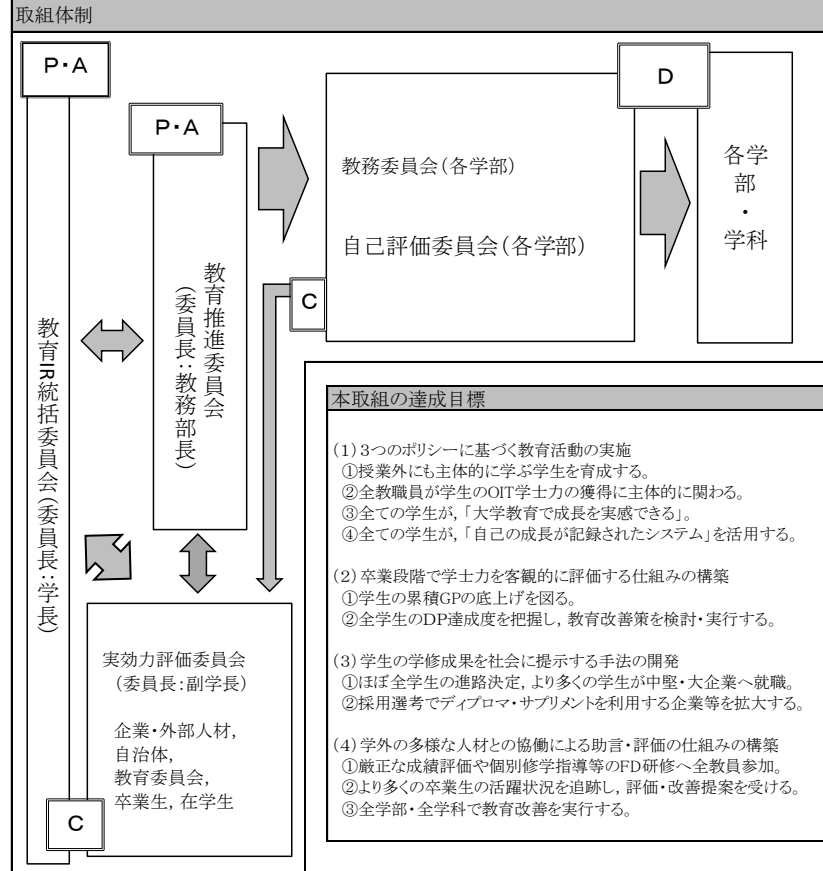
これまでの取組

既に特定の学部・学科においては、教育改善のための外部委員会の設置、学業成績発表時の修学状況のフィードバックによる学習成果の可視化の取組みを行っている。これらの実績を踏まえて、3ポリシーに基づく教育活動の実施体制の充実、客観的評価の仕組みの構築、学修成果の把握による教育改革の充実を図っている。
その具体的取組として、平成28年3月に学長方針として、「適正な成績評価基準に基づく厳正な成績評価」を実施する方針が打ち出され、全学部の全授業において、合格に達するためのミニマム・リクワイアメントを提示し、それに基づき成績評価の強化を図る改革がスタートした。

本事業における取組・達成目標(総括)

各科目の教員評価等に基づくディプロマ・ポリシー達成度を管理する『ディプロマ・サプリメント・システム』を独自に開発する。
本システムは、全学部全学科で、身に付けた知識や技術を証明する証書を発行できるまでに人材育成を図る(質保証を行う)ためのシステムとして開発する。“定期的に学修成果を可視化し学生にフィードバックする機能”、“学力定着度を客観的に評価する機能”を一元管理する。
本システムに基づくことにより、全ての学部・学科の学生に対して質保証を果たす修学体制のモデル化を図る。

具体的な取組	取組項目	詳細
1.3ポリシーに基づく教育活動の実施	(1)ディプロマ・ポリシーの具体化・明確化と体系的・組織的な教育	①卒業生調査により、学生が身に付けるべき力(OIT学士力)を具体化、実効力評価委員会の検証に基づきDP改定 ②かキュラム・マトリクスを作成し、各教員の役割を明確化 ③4年間で段階的に力を身に付けられる履修モデルを開発 ④分野別質保証を有効にする教育課程改編など、総合的な学部教育改革
	(2)ディプロマ・ポリシーと社会との関係の明確化と、学生のキャリア形成の取組	⑤OIT学士力強化のためのキャリア形成支援手帳の制作 ⑥ディプロマ・サプリメント・システムの開発と、教員による学生の個別履修指導 ⑦学生の主体的行動と成長を促すキャリア開発講座
2.卒業段階で身に付けた力の客観的評価の仕組みの構築	(1)アセスメント・ポリシー策定と、全教職員による教育改善活動	⑧認知的能力・汎用的能力、一般教養、専門知識についてアセスメント・ポリシーを策定、到達度確認テストや教員評価の実施 ⑨授業アンケートの抜本的改革と教育改善への活用 ⑩評価データIR分析、教育推進委員会へ報告と改善実行
	(2)各科目の成績評価基準の明確化と、厳正な進級・卒業認定	⑪成績評価基準の明確化、ミニマム・リクワイアメントの導入・提示 ⑫各学生のディプロマ・ポリシー達成度の可視化、ミニマム・リクワイアメントの達成を進級・卒業認定要件とするなどの抜本的改革
3.学修成果を社会に提示する手法の開発	(1)卒業時の学修成果の客観的提示方法の開発	⑬実効力評価委員企業等とのディプロマ・サプリメントの共同開発 ⑭ディプロマ・サプリメント・システムとディプロマ・サプリメントの連動 ⑮①やOB在籍企業の採用選考でのディプロマ・サプリメント活用
4.学外人材との協働による助言・評価の仕組みの構築	(1)学外の多様な人材との協働による外部評価委員会の設置	⑯企業、自治体、教育委員会等で構成する「実効力評価委員会」を設置、本学の教育改善への助言評価を受ける。
	(2)卒業後の学修成果活用状況の把握・分析と、教育改善への活用システムの開発	⑰企業満足度調査により、教育成果と課題を把握・分析 ⑱卒業生インタビュー調査により、就職後の学修成果活用状況を把握、課題発見、教育改善策を抽出 ⑲卒業生アンケート調査により、教育改善策を絞り込む ⑳在校生アンケート調査により、現状把握と課題発見 ㉑学修成果や学生データを一括集約する教育IRシステム開発 ㉒教育IR統括委員会の設置とプラン策定、進捗管理



“教職協働による大学全体への浸透”、“助言評価”の体制

全学部・学科の全ての授業において、成績評価基準としてミニマム・リクワイアメントを提示し、適正に成績評価を行う取組をスタートさせた。
これは、成績評価の適正化による卒業時の質保証の実現を目指すものであるとともに、より一層の教育力向上とシラバス作成等に関わる教学事務部署を中心に教職協働体制を充実することで、質保証の取組を大学全体に浸透していくことを目的としている。
このような全学的な体制整備を通して学生の学習の質向上、更に外部評価(実効力評価委員会の検討結果)の全教職員へのスムーズな浸透により、本学の教育をより社会ニーズに合致したものとする事が可能となる。